

研究主題

考え、かかわり、学びをつなぐ 力を持った 児童の育成

～学びの必然性がある学習課題設定の工夫(1年次)～

考え、かかわり学びをつなぐ授業

- (1) かかわりの目的や、思考の視点の明確化
- (2) 学びをつなぎ、高める指導の工夫(発問、指示、問い返し、学習モデルや条件の提示、スキル)
- (3) 思考を深め、可視化する、効果的な思考ツールやICTの活用
- (4) 多様なかかわりをつくる学習形態の工夫(個別・ペア・グループ・全)

＜必然性のある学習課題設定の工夫について＞

- ・教材との出合わせ方の工夫(知的好奇心の喚起や実生活とのつながり等)
- ・多様な課題・問いを生み出す発問・教材・資料等の提示(既習事項・既有知識とのズレ等)
- ・必要感を高める課題設定(意見の対立・葛藤・生活課題の解決等)
- ・生活と関連付けた計画・ゴールの設定や道筋を明確にした計画等

1. 単元名 (教材名・題材名・資料名)

読んで考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」

登場人物の人がらをとらえ、話し合おう 「白いぼうし」

2. 単元の目標

- ◎文章を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いのあることがわかる。【読(1)オ】
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。【読(1)ウ】
- 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うことができる。【書(1)カ】

3. 単元について

＜教材観＞

いたずらばかりするひとりぼっちのごんぎつねは、自分のいたずらのせいで兵十のおっかあが死んだと思ひ込む。ごんは同じくひとりぼっちになってしまった兵十に償いを始めるが、ごんの行動や思いは兵十に伝わらない。そしてごんは兵十に撃たれてしまう。

一人ぼっちの淋しさをかかえた両者が共感することなくすれ違い、「殺す、殺される」という結末になるという悲劇は、子どもたちの心に深く突き刺さると共に余韻のある悲しみとなって広がっていく。

ちょっとしたいたずら心が思わぬ影響を及ぼしてしまうこと、兵十への一方的な共感等、ごんの思いや行動は人間にも通じるものである。また、ごんからの視点だけでなく、兵十の視点からも物語を読み取ることができる。伝聞という形からごんを殺してしまったことによ

って、ごんとのつながりを断ち切ってしまった兵十の後悔についても考えることができる。児童の自我が芽生えてくるこの時期に、この教材を通して自分自身を見つめさせ、目の前の他者と分かり合うことの難しさ、大切さを考えられる教材である。

<児童観>

本学級の児童は、物語の学習において「比較」することで読みを深めていった。「白いぼうし」では、物語に出てくる男の子と女の子や「夏みかん」の描写の比較について考えた。最初は、発表や自分の意見さえ書けない児童が多く、「恥ずかしい」「どう考えたらいいかわからない」と言っていた。しかし、学習していくうちに、「白いぼうし」のファンタジーの世界に惹き込まれていき、進んで意見を書く児童が多くなった。「一つの花」では、3年生の時に学習した「ちいちゃんのかげおくり」と比較して、初発の感想を書いている児童がいた。同じ戦時中の物語を読むことにより、類似点や相違点を考えることができた。今回は既習の「白いぼうし」と「ごんぎつね」の二つの物語を比較する。前回の読み比べと違い、二つの物語の設定は全く違うが、その中でも比較できる部分がある。「一つの花」と「ちいちゃんのかげおくり」同様、他作品と比較することで読みを深めさせたい。

<指導観>

指導にあたっては、以下の点に留意する。

① 情景描写や色彩語、五感で感じられる表現に着目する。

「ごんぎつね」には美しい情景描写、色彩語や五感に関する表現がたくさん出てくる。これらから、児童の感受性に訴えかけ、想像豊かに読ませたい。そして、それらの表現技法を抛り所とし、どの児童にも自分なりの考えを持たせたい。

② 「白いぼうし」との読み比べ

「白いぼうし」の松井さんともんしろちょう、「ごんぎつね」の兵十とごんとの関係は、同じ「人間と動物」との関係である。しかし、松井さんと兵十の接し方を比べてみると全く違う。

本時では色彩語を通して、それぞれの作品を貫く関係を考えることで、この違いから主題に迫っていく。二つの白色を比べることで、ごんと兵十の関係に迫り、「分かり合う」ということがどういうことなのかを自分なりに考えさせたい。なお、松井さんの人物像の理解を深めるために、「車のいろは空のいろ」シリーズを並行して読ませていく。その手立てとして、総合学習の時間に班ごとに松井さんの出てくる話を選び、紙芝居にし、発表させていく。

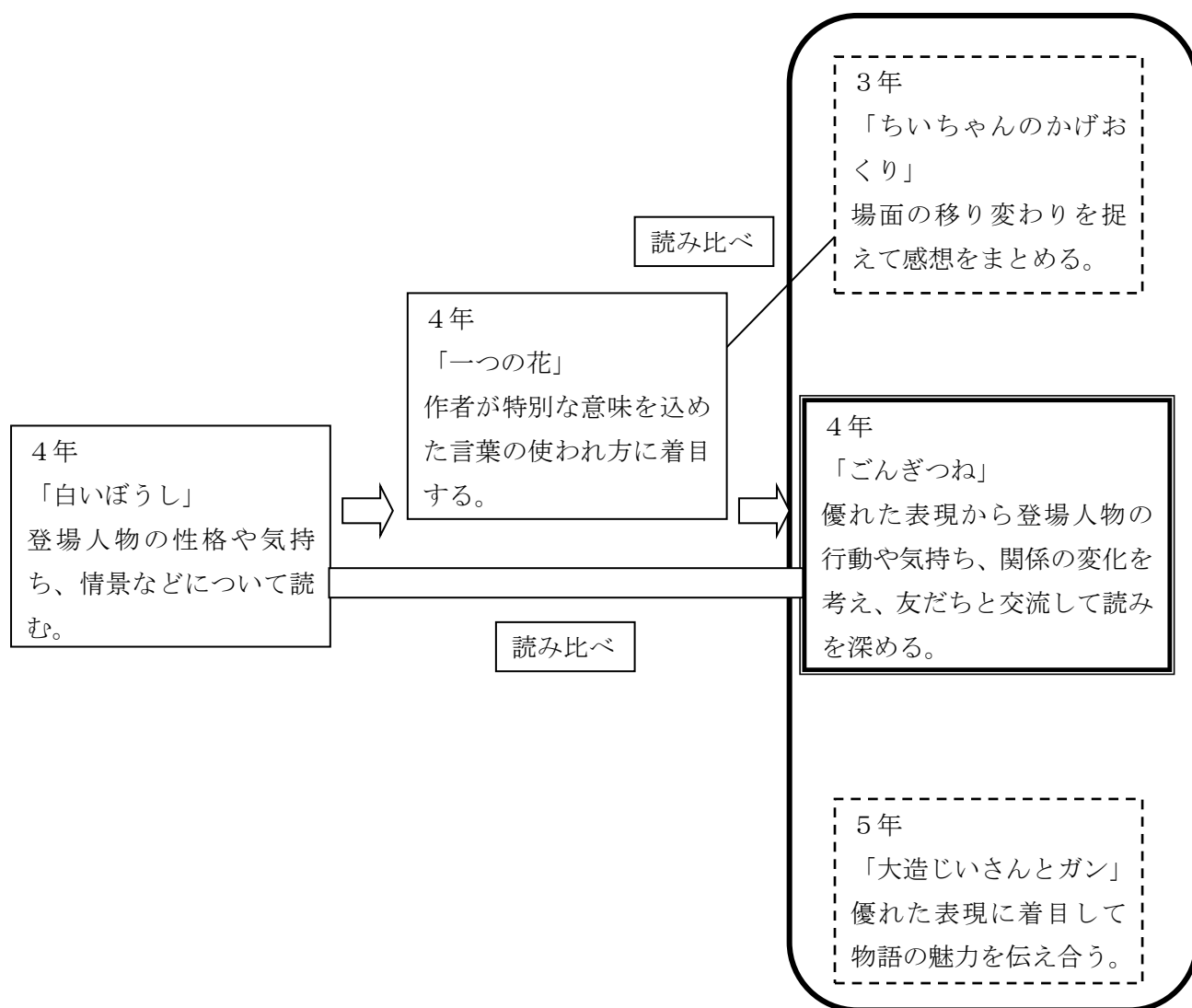
4. 研究テーマとの関わり ～学びの必然性がある学習課題設定の工夫(1年次)～

- ・教材との出会わせ方の工夫(知的好奇心の喚起や実生活とのつながり等)
 - ・多様な課題・問いを生み出す発問・教材・資料等の提示(既習事項・既有知識とのズレ等)
- 「白いぼうし」と「ごんぎつね」を比較し、類似点・相違点から読みを深める。

5. 評価規準

知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

6. 単元の系統性



7. 指導と評価の計画（評価は省略）

★並行読書→「車のいろは空のいろ」シリーズ

	時間	学習活動【学習内容】	評価規準（評価方法）
第一次 「構造と内容の把握」	1	「構造と内容の把握」 ○本文の音読	知技 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（観察） 関 自分なりの感想を持っている。（ワークシート・発表）
	2	○初めの感想を書く。 ○物語の設定の確認をする。	
第二次 「精査・解釈」	3	「構造と内容の把握」 ○情景描写から、ごんがいたずらをした背景を読み取る。	知技 情景描写から登場人物の気持ちを読み取っている。（ワークシート・発表）
	4	○「光」が象徴していることからごんと兵十の関係について考える。	思判表 「光」が象徴することについて自分の意見を書き、友だちと比べて考えを深めている。（観察）
	5	○「彼岸花」が象徴していることからごんと兵十の関係について考える。	思判表 「彼岸花」が象徴することについて自分の意見を書き、友だちと比べて考えを深めている。（観察）
	6	○二人の距離の変化からごんの兵十への思いの変化を考える。	知技 叙述を基に二者の距離の変化を考えている。（ワークシート・発表）
	7	○ごんから兵十への贈り物の置き方の変化から、ごんにとって、兵十が特別な存在になっていることに気付く。	知技 叙述をもとに二者の距離の変化を考えている。（ワークシート・発表）
	8	○呼び名の変化から、兵十のごんに対する思いの変化を捉える。	知技 呼び名の変化から登場人物の気持ちの変化を考えている。（ワークシート・発表）

第三次 「考えの形成」	9	「考えの形成」 ○視点の変化から、最後の場面の互いの 思いを考える。	関 視点の変化に気付き、自分なりの感想・意見を持っている。（ワークシート・発表）
	10	○オノマトペから最後の場面の二者の 互いの思いを考える。	知技 叙述から登場人物の気持ちを考えている。（ワークシート・発表）
	11	○なぜ松井さんがもんしろちょうの声を 聞いたのかを考える。	知技 叙述から登場人物の気持ちを考えている。（ワークシート・発表）
	12	○「白いぼうし」に出てくる「白」から 三者の関係について考える。	思判表 「白」が象徴することについて自分の意見を書き、友だちと比べて考えを深めている。（観察）
	13 本時	○色彩語から、作品の主題に迫る。（「白 いぼうし」と「ごんぎつね」の二つの作 品の登場人物と他者との関係を比較す る。）	知技 二つの物語に出てくる「白い」という色彩語から登場人物の関係について考えている。（ワークシート・発表）
	14	○最後の一文から、ごんと兵十の思いを 考える。	知技 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方に違いのあることに気付いている。（ワークシート・発表）
	15	○前話が存在する意味について考え主 題に迫る。	知技 前話の存在から登場人物の気持ちを読み取っている。（ワークシート・発表）
	16	○物語の終わり方から主題を考える。	知技 題名から登場人物の気持ちの変化を読み取っている。（ワークシート・発表）
四次 「共有」	17 「共有」 ○学習を通しての感想を書き、友だちと 交流する。	思判表 書いたものを発表し合い、自分の考えと相手の考えを比べて自分の考えを深めている。（ワークシート・発表）	

8. 本時の目標

○二つの物語に出てくる「白」という色彩語から二者の関係について考えている。

【観点】

9. 本時の展開 (13 / 17)

過程	子どもの意識の連続性	学習活動	教師のはたらきかけ (評価規準・方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白い物→ 「もうすぐ死ぬ。」 ・ 白い着物 「そうれつの時に着る。」「悲しい。」 ・ 白いかみしも おっかあが死んだということを実感するもの。」「ごんにとってはつぐないのはじまり。」 	<p>○「白」が何を象徴していることを発表する。</p>	<p>★どの児童も学習に参加させやすくする。</p>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> めあて 「白」からごんと兵十のつながりについて考えよう。 </div> <p>「ごんと兵十は『死』の場面につながっている。」「二人の間には色が染まらない。」</p> <p>「松井さんと兵十は、他の人に対しての接し方が違う。」→ 「松井さんは誰に対しても対等に接することができる。」「受け入れる優しさがある。」 「兵十はごんを『殺す』ことによって関係を断ってしまった。」</p>	<p>○白色から、ごんと兵十がどうつながっているか考える。</p>	<p>思判表 書いたものを発表し合い、自分の考えと相手の考えを比べて自分の考えを深めている。 ★一つひとつの「白」が象徴していることから、「白」が二者をつなぐものであるということにつなげる。</p> <p>知技 二つの物語に出てくる「白」という色彩語から登場人物と他者との関係について考えている。(ワークシート・発表)</p>

<p>まとめ</p>	<p>『ごんぎつね』の中の『白』は死でつながっている。」</p>	<p>○「ごんぎつね」の中の「白」をふり返り、次時の学習につなげる。</p>	<p>関 優れた表現から感じたことを自分なりの言葉で書いている。 (ワークシート・発表) ★ごんぎつねの中の「死」＝「白」ならごんが死ぬ場面の煙はなぜ「青」なのかという疑問を次時につなげる。</p>
------------	----------------------------------	--	--

10. 板書計画

